

仙台大学 広報室

# Monthly Report

大学構内の紅梅

## 体育系大学の特性を活かす「多様な学びの空間 (ラーニングコモンズ)」が4月オープン



2016年4月、仙台大学LC棟に「多様な学びの空間 (ラーニングコモンズ)」がオープンします。ラーニングコモンズは、学生たちによる「SOCIALIZE～出会い～」・「EXTERNALIZE～表現する～」・

「VISUALIZE～共に見る～」をコンセプトとしており、既存図書館に接続された大空間は、「固定ミーティングエリア」・「フリーミーティングエリア」で構成されています。各エリアの特徴を活かし、学生の主体的な学びや活動を支援。特に、「フリーミーティングエリア」には、大型マルチビジョン (全国の大学でも最大規模) を三台配置し、迫力ある映像を投影できるシステムを導入しています。同エリアは、体育系大学の特性を活かしたスポーツ・バーのBarの部分を除いた機能を持たせ、世界中のスポーツの実況が楽しめるようになっています。

1月27日(水)、仙台大学LC棟の引渡式ならびに披露式が執り行なわれました。引渡式で朴澤泰治理事長は「体育系大学としての新たな学びの空間 (ラーニングコモンズ) を展開していきたい。学生と教職員が意見や情報を交換し、相互に学び合う場として活用してほしい」。阿部芳吉学長は「学生だけでなく、地域にも愛されるラーニングコモンズとなるような取組みを考えていきたい。学生にとって価値ある学習の場になることを期待している」と話されました。

披露式に訪れた中島貴志さん (大学院1年) は、「ラーニングコモンズは、アイデア次第で使い方がどんどん広がると思います。大型マルチビジョンから伝わってくる迫力や臨場感は素晴らしい。リオデジャネイロオリンピックの時には、大型マルチビジョンを活用したパブリックビューイングで日本代表を応援してみたいです」と話してくれました。

### < 目 次 >

体育系大学の特性を活かす「多様な学びの空間 (ラーニングコモンズ)」が4月オープン	1
専門機器使い本学で体力測定 —プロ野球楽天新人8選手	2
第4回 全国高校生介護技術コンテストに参加! 「奨励賞」受賞	2
阿部学長韓国(龍仁大学・韓国体育大学)訪問	3
DAN DAN DANCE&SPORTS 12thを開催—「挑戦」をテーマに24組がダンスを披露	4
学生の競技結果	6

学生の活躍や、取組みをご存知でしたら  
広報室までお寄せください。

Monthly Reportで紹介する他、報道機関  
にも旬な話題を提供していきたいと考えて  
おります。

本誌へのご意見・ご質問等がございましたら、  
広報室までご一報ください。

#### 広報室

TEL 0224-55-1802

FAX 0224-57-2769

Email:kouhou@sendai-u.ac.jp

スポーツを英語で語るキャンパス創り

"A campus for Sports Education through English"  
—LET'S TALK SPORTS IN ENGLISH!—2017年創立50周年  
50 years Anniversary of Establishment in 2017 SENDAI UNIVERSITY Since 1967

SPORTS FOR ALL ~スポーツは健康な人のためだけでなく、全ての人に~

## 専門機器使い本学で体力測定—プロ野球楽天新人8選手



最大酸素摂取量を測定するオコエ選手＝仙台大学スポーツ生理学実験室

1月10日（日）、プロ野球東北楽天ゴールデンイーグルスの新人8選手（オコエ瑠偉外野手・茂木栄五郎内野手・堀内謙伍捕手・石橋良太投手・足立祐一捕手・村林一輝内野手・出口匠内野手・山田大樹内野手）が、本学で専門機器を使った体力測定を行ないました。東北楽天ゴールデンイーグルスの新人選手の体力測定は、選手それぞれの体力やコンディションの把握、練習メニューの設定などの参考にするために、本学で6年前から実施されています。

新人選手たちは、最大酸素摂取量（全身持久力の指標）と脚筋力の測定を行ない、ドラフト1位のオコエ選手（＝写真）も苦しそうなお顔を浮かべながら取り組んでいました。

今回の体力測定では、本学の高橋弘彦教授、内丸仁・竹村英和の各准教授、山口貴久・高橋陽介の各講師が測定指導を行ない、本学体育学科トレーナーコース及びアスレティックトレーナー部の学生らが測定補助を行ないました。

脚筋力の測定補助を行なったアスレティックトレーナー部の野澤照平さん（体育学科3年—栃木・大田原高校出身）は、「楽天の体力測定の補助を行なったのは、今回で2回目です。選手たちに理解してもらえるよう、分かりやすい言葉での説明を心がけました。今後のトレーナー活動に生かしていきたいです」と話し、本学の山口講師は「スポーツ科学の教育研究機関として、本学の専門機器を使った楽天との連携・協力を通して、チーム強化や成績向上に繋げてほしい。トレーナーを目指す学生たちの実践教育の場になっている」と語りました。

## 第4回 全国高校生介護技術コンテストに参加！「奨励賞」受賞



平成27年10月31日、11月1日に三重県伊勢市にて行われた「第4回高校生介護技術コンテスト」に東北地区の代表として、明成高校介護福祉科2年生5名が出場しました。（選手：阿部花音、加藤すみか 補欠選手：奥田萌花 サポート：天野海晴、佐藤茜）

コンテストの課題は2段階で提示され、介護者の「現場対応力」が問われる難題でしたが、選手たちは心のこもった思いやりある介護実践を発表しました。

多くの方から「感動した！」との声を頂き、審査委員からは「身だしなみ、態度、姿勢が非常に素晴らしい。福祉を学ぶ高校生のお手本にしたい。ボディメカニクスと残存能力を活かした介助も非常に素晴らしかった。」と高く評価されました。惜しくも『最優秀賞』には届きませんでした。『奨励賞』を頂き、生徒たちは他校の発表から多くの事を学び、「来年もチャレンジしたい」と新たな目標を見つけました。

このコンテストに向け、本学科卒業の高橋先生や支倉先生が生徒たちと朝、昼、放課後と練習を重ねてきました。今大会を通して、改めて福祉を学ぶ高校生の大きな可能性を感じる事ができ、今後も明成高校介護福祉科と健康福祉学科と連携を深めながら頑張りたいとの報告がありました。

仙台大学で学び、現在、高校で介護福祉士の人材養成に携わり大きな力を発揮していること、そしてこのような報告は大変うれしく感動します。

<報告：健康福祉学科長 大山さく子>

## 阿部学長韓国(龍仁大学・韓国体育大学)訪問



本学への留学希望学生（龍仁大学）を交えて

12月16日から18日、韓国との交流促進を目的に学長以下5名で龍仁（ヨンニン）大学と韓国体育大学を訪問しました。両大学とも本学とは十年來の交流関係を育んできています。今回は親交の深い齋藤浩二現代武道学科長や、南條女子柔道部監督も同行したこともあり、両大学とも学長一行を大歓迎してくださいました。

龍仁大学はソウルの南東の龍仁市にある体育・スポーツから科学、芸術分野へと領域を広げていった総合大学です。龍仁大学とは学生交流に関する合意書の調印を行ったほか、4月から本学に長期留学する希望者4名も挨拶にかけつけてくれました。



上：パク副学長（龍仁大学）と本学阿部学長  
下：病をおしてかけつけたパク学長と談笑

また、本年度韓国大学選手権優勝チームであるサッカー部や、オリンピックメダリストも交えて練習する柔道部の様子、その他障がい児用のスポーツ指導施設など、龍仁大学の充実した体育関連施設も視察させていただきました。

韓国体育大学はソウル市内にある韓国唯一の国立体育大学です。テコンドーやスピードスケートなどで世界レベルの選手を多数輩出しています。本学現代武道学科でテコンドーをご指導くださる張先生のいらっしゃる大学でもあります。

韓国体育大学からも日本や本学に興味を抱いている学生がおり、2月には教員と共に本学を訪れたとのことでした。



韓国体育大学のキム学長(右)

韓国体育大学にはスピードスケートのショートトラック専用リンクがあり、メダリストを多数育成したチョン教授にお話をうかがうことができました。また、日本からも練習のため選手が来ていました。テコンドー学科の演舞も披露してくださり、空手六段の阿部学長は食い入るように見つめていました。



テコンドーの演武

韓国がオリンピックで獲得するメダルは龍仁大学の学生およびOBが20%、韓国体育大学の学生およびOBが25%などと競い合っている様子を伺い、互いに高いレベルでのよいライバル関係にあることが感じられました。

今回の学長訪韓機会に、両大学とも本学との交流をより進めていきたいとの意向が確認できました。



本学と韓国体育大学のスタッフ

<報告：国際交流センター長 荒井龍弥>

## DAN DAN DANCE&SPORTS 12thを開催 —「挑戦」をテーマに24組がダンスを披露



迫力あるダンスパフォーマンスを披露する仙台大学わんぱくフット  
=えずこホール（宮城県大河原町）

1月23日（土）、えずこホール（仙南芸術文化ホール）において、今年で12回目を迎えた「DAN DAN DANCE&SPORTS 12th」（主催：仙台大学・DAN DAN DANCE&SPORTS実行委員会）が開催され、約300名の方々のご来場下さいました。老若男女・障害の有無を問わないダンサーたち24組の「挑戦」をテーマにした力強く華麗なダンスが披露され、会場から大きな歓声と拍手が送られました。

仙台大学からは、男女新体操競技部・体操競技部・ブレイキン同好会のほか多数の団体が出演。明成高校・東北生活文化大学高校・常盤木学園高校・クラーク記念国際高校仙台キャンパスの高校生ダンサーたちも若さ溢れるエネルギッシュなダンスを披露し、会場を大いに盛り上げました。

最終演技では、ゲストダンサーとして招かれたドイツで活躍しているミハエル・シャンドール氏が、繊細な感性と創造性のある「コンテンポラリーダンス」を繰り広げ、会場は表現力豊かなダンスに魅了されました。

DAN DAN DANCE&SPORTS 12thを無事に終えた実行委員長の坂祐希さん（運動栄養学科4年一福島・須賀川桐陽高校出身）は「無事に終えられた感動と感謝の気持ちでいっぱいです。それぞれの作品に個性があり、一生懸命さが伝わるものばかりで、見応えがありました。出演者の笑顔が見られて良かったです」。本学の山梨雅枝講師は「学生たちに、ダンスを「踊る」・「創る」という力のほかに、「観る」という「鑑賞力」が身に付いてきているという手応えを感じています。ドイツから招聘したミハエル氏には、学生たちのダンスの作品指導をして頂きました。英語でコミュニケーションが交わされ、海外に目を向ける学生たちが増えれば嬉しいです」と話されました。

なお、「DAN DAN DANCE&SPORTS」は、毎年1回開催されております。



ミハエル・シャンドール氏

## 平成28年度大学入試センター試験終了



1月16日（土）～17日（日）に実施された大学入試センター試験が無事終了しました。今年の宮城県内の志願者数は去年より156人少ない9,742人で、宮城県の12ヶ所11大学を会場とし、そのうち仙台大学では750人が受験しました。

16日に地理歴史・公民・国語・外国語、17日に理科と数学それぞれの試験が行われましたが、心配されたリスニングの再試験、体調を崩す受験生、別室対応も一切起きず、今冬の最低気温を記録した16日は、積雪や凍結による受験生の転倒、怪我などが心配されたものの、幸い特段の影響もありませんでした。

2月6日（土）～7日（日）に本学の一般入試試験も予定されており、受験生にとって希望のふくらむ暖かい春は間もなくです。

## 「講座仙台学2015」で田中智仁准教授が講演—仙台のイベント警備を考える



仙台のイベント警備についてわかりやすく講演する田中准教授  
＝仙台市市民活動サポートセンター

本学体育学部現代武道学科の田中智仁准教授は、1月30日（土）、仙台市市民活動サポートセンター6階セミナーホール（仙台市青葉区）で開催された学都仙台コンソーシアム主催の「講座仙台学2015」において、『仙台のイベント警備を考える』と題した講演を行いました。田中准教授は、約40名の参加者に対して、時折クイズを交えて警備業の基本情報を紹介した上で、仙台のイベント警備の特徴を東京のケースと比較しながら説明しました。

講演の中で、田中准教授は「仙台市は、都市圏を郊外に拡大させず、中心部に都市機能を集中させる効率的で持続可能な街づくりを目指す「コンパクト・シティ」を都市政策として公式に取り入れている」と紹介され、コンパクト・シティのイベントの「万全な警備体制」について持論を発表されました。

また、警備員による「広報」の種類は、「情報広報（来場者に対して各種情報を提供して、興奮・焦燥感等を解消する）・規制広報（来場者の行動・意図を察知し、機先を制して行動を是正することで事故を未然に防止する）・禁止広報（来場者が不穏な行動に出た際、これに対して警告し、行動を制止する）・感謝広報（来場者の協力に対する謝意の表明）」の4種類があることを知って頂き、群集心理を踏まえて効率的に実施すれば、お客様に不快感を与えずに事故の発生を警戒・防止できる」と力説しました。

講演後、質疑応答の時間が設けられ、参加者からは「良い写真が撮れそうなスポット（場所）には、大抵警備員が配置されており、写真撮影の妨げになっているので何とかしてほしい」、「警備計画書や警備員の統制要領の重要性について教えてほしい」の質問が出るなど皆さん熱心に聴講されました。

講演を聴講されたワールド警備保障株式会社常駐警備部の中村仁課長は、「東京と仙台の群集の動きの違いを比較しながら、街づくりと警備を考えてコンパクト・シティのイベントの警備を行なうことが重要と話され、大変興味深かったです。改めて警備業について考える機会になりました」と話されました。

## ウエイトリフティング部、渡部詩乃選手(体育学科1年)が「全日本学生新人選手権」制す



さらなる飛躍を胸に練習に励む渡部選手  
=仙台大学ウエイトリフティング練習場

平成27年10月25日(日)、埼玉県スポーツ総合センターで開催された「第60回全日本学生ウエイトリフティング新人選手権」で、大学から競技を始めた渡部詩乃選手(体育学科1年-山形・鶴岡北高校出身)が、1年目にして学生新人大会の頂点に立ちました。

渡部選手は、女子53kg級に出場し、スナッチ50kg・ジャーク64kg・トータル114kgで優勝を果たしました。

期待のルーキーに、試合で感じたことや今後の抱負などについてお話を聞きました。

### Q1.表彰台のてっぺんに上がった気持ちは?

優勝できるとは思っていなかったので、驚いています。表彰台のてっぺんは、最高に気持ちよかったです。何度でも最高の気持ちを味わえるよう、初心を忘れず、日々精進して頑張ります。

### Q2.目標の選手は?

ロンドンオリンピック日本代表(ウエイトリフティング女子53kg級)の八木かなえ選手です。八木さんは、高校入学と同時に体操からウエイトリフティングに転向されました。私も大学入学後、陸上の円盤投げからウエイトリフティングに転向しましたので、親近感を持っています。八木さんと私では、アスリートとしてのレベルは違い過ぎますが、憧れであり、目標であり、ライバルでもあるという特別の存在です。

### Q3.今後の課題や抱負は?

床から膝までのバーベルを引き上げる動作(ファースト動作)が遅いので、懸垂などで広背筋を鍛え、持ち上げるスピードと正しい姿勢を身に付けたいと思います。スクワットや腹筋・背筋・プレス・フォームの修正などの基本を徹底的に反復練習することが、真の実力を付けるために欠かせないと思っています。

自己ベストは、スナッチ53kg・ジャーク70kg・トータル123kgです。常に自己ベストの更新を意識しながら、自分で考えて練習することを目標にして日々練習に励みたいです。

来年度の全日本インカレでは、「5位以内」に入りたいです。

## PROFILE

### 渡部 詩乃(わたなべ しの) / 全日本学生ウエイトリフティング新人選手権「優勝」



体育学科1年-山形・鶴岡北高校出身。

ウエイトリフティング部所属。

1996年(平成8年)11月3日生まれ。山形県鶴岡市出身。

152cm/52kg。血液型O型。

高校時代は、陸上の円盤投げの選手として東北大会出場。高校の恩師から脚力と瞬発力がウエイトリフティング向きと勧められ、仙台大学入学と同時に陸上からウエイトリフティングに転向。

第60回全日本学生ウエイトリフティング新人選手権「優勝」。